

令和 6 年度 第 1 回常総市立小中学校適正配置実施計画検討委員会

**常総市立小中学校適正配置実施計画に基づく**

**「小学校の第 2 段階における統合計画」について**

---

令和 7 年 2 月 28 日  
常総市 教育委員会 学校教育課

## <目 次>

<u>1.</u>	<u>適正配置の基本的な考え方・具体的方針</u>	
1-1 :	適正配置とは	P. 2
1-2 :	本市の具体的方針	P. 2
1-3 :	本市の統合計画図	P. 3
<u>2.</u>	<u>本市の「人口推計」と「児童数の推計」</u>	
2-1 :	本市の「人口推移と将来推計」	P. 4
2-2 :	本市の「児童数の推移と将来推計	P. 5
<u>3.</u>	<u>学校の適正な規模</u>	
3-1 :	法令等による適正規模	P. 8
<u>4.</u>	<u>本市の「学級数の推計」</u>	
4-1 :	公立小学校の学級編成基準	P. 9
4-2 :	学級数の推移と将来推計	P.10
4-3 :	本市の学校規模の現状と見込み	P.13
<u>5.</u>	<u>小学校の第2段階における統合計画について</u>	
5-1 :	「五箇小学校と大生小学校」による統合計画	P.14
5-2 :	「玉小学校・石下小学校・豊田小学校」による統合計画	P.18

## 【1-1. 適正配置とは】

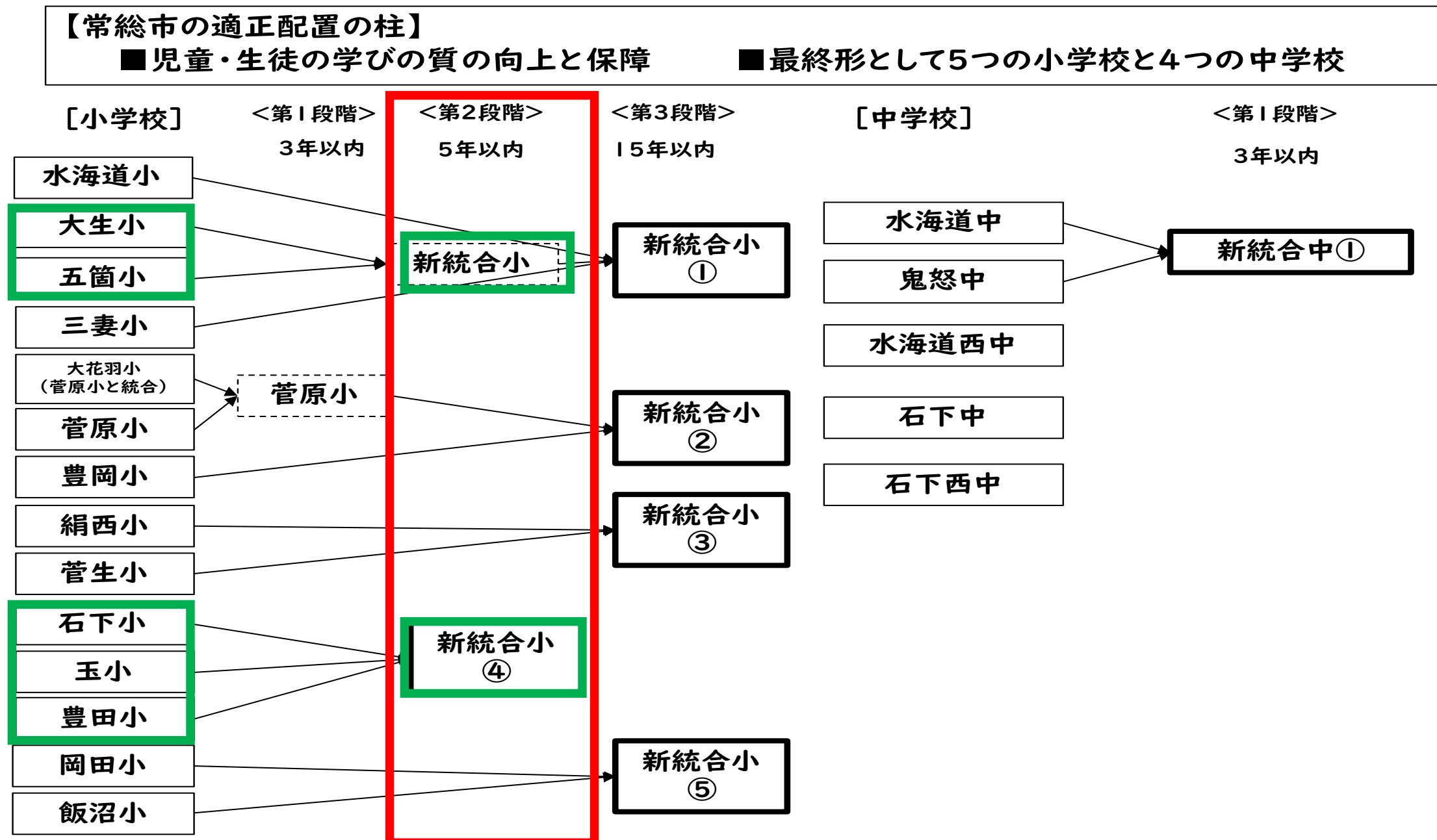
- 「学校規模の適正化を図る」・「小中学校を適正に配置」することで、児童生徒の“より良い教育環境”を確保することを目的の一つとしている。
- 文部科学省が示す指針において、義務教育段階の学校では、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、一定の集団規模が確保されていることが望ましいとされており、学校適正配置は、このような「良好な教育環境を将来にわたって継続的に確保していくための取り組み」となる。

## 【1-2. 本市の具体的方針】

- 児童生徒数の推移状況、地域性、市の適正規模・適正配置の基本的な考え方を考慮した統合校の組み合わせは、次ページ統合計画図のとおり。
- 市内の公立小中学校19校全校を対象とし、15年先を見据え3つの段階に分けて計画的に進めるもの。児童生徒の学びの質の向上と保障を柱とし、最終的に小学校を14校から5校、中学校を5校から4校とする計画。

# 1. 適正配置の基本的な考え方・具体的方針

## 【1-3. 本市の統合計画図】

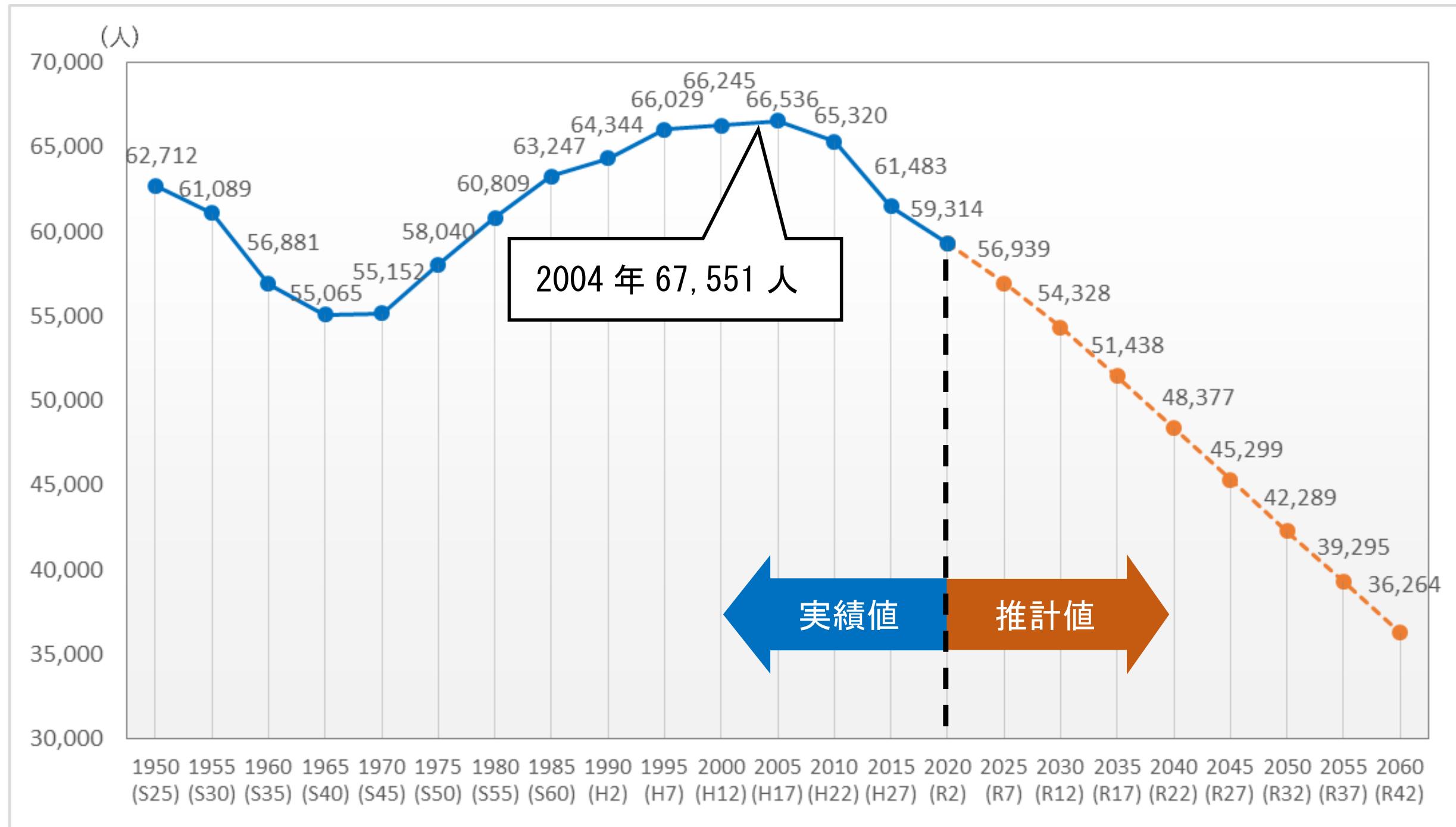


※「常総市立小中学校適正配置実施計画」（令和5年3月 時点修正版）から一部抜粋。

※『適正配置計画図』において、3年以内・5年以内・15年以内と記載された年数は、当初計画策定期間となる令和4年5月からの「計画実施目標期間」を示すもの。

## 2. 本市の「人口推計」と「児童数の推計」

### 【2-1. 本市の「人口推移と将来推計】



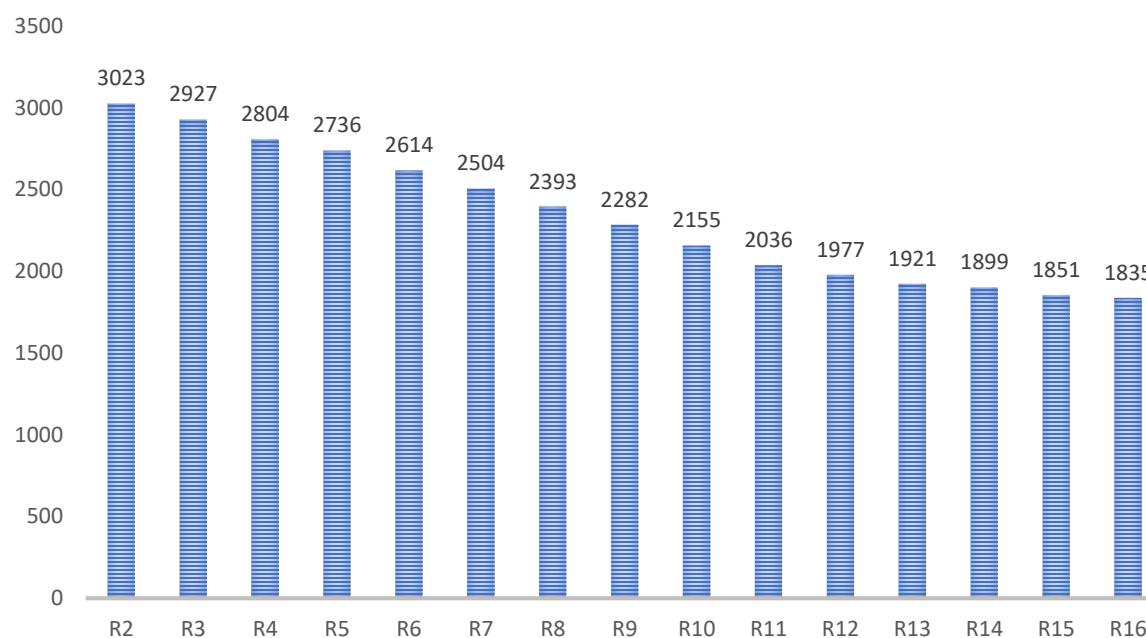
※出典：常総市人口ビジョン（令和3年改訂）より抜粋  
(2020年までの実績) 総務省「国勢調査」及び茨城県常住人口調査  
(2025年以降の推計) 内閣府「将来人口推計のためのワークシート（社人研推計準拠）」を基に作成

## 2. 本市の「人口推計」と「児童数の推計」

### 【2-2. 本市の「児童数の推移と将来推計】

#### ●市内小学校 全校

	実 績					推 計										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
水海道小	463	458	461	440	429	406	407	380	361	355	346	347	331	329	334	
大生小	120	117	110	106	98	90	79	73	60	59	54	55	57	58	58	
五箇小	66	67	65	62	51	51	45	39	33	27	31	31	31	29	27	
三妻小	189	179	171	164	163	157	138	137	136	133	134	129	130	127	126	
大花羽小	60	48	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
菅原小	99	103	101	122	115	113	105	104	103	102	99	96	100	95	92	
豊岡小	219	212	209	221	228	236	236	233	224	208	194	190	184	179	176	
絹西小	448	429	413	380	349	323	284	260	236	230	227	215	220	220	212	
菅生小	150	147	136	138	130	118	116	105	96	80	79	74	69	66	68	
岡田小	325	321	315	338	315	312	310	299	288	264	265	259	254	246	244	
玉小	104	107	111	103	96	86	78	68	61	58	55	54	54	53	51	
石下小	427	404	368	367	352	339	334	322	300	292	274	270	265	255	260	
豊田小	116	108	98	94	87	74	70	72	76	68	73	70	72	71	64	
飯沼小	237	227	207	201	201	199	191	190	181	160	146	131	132	123	123	
小学校計	3023	2927	2804	2736	2614	2504	2393	2282	2155	2036	1977	1921	1899	1851	1835	



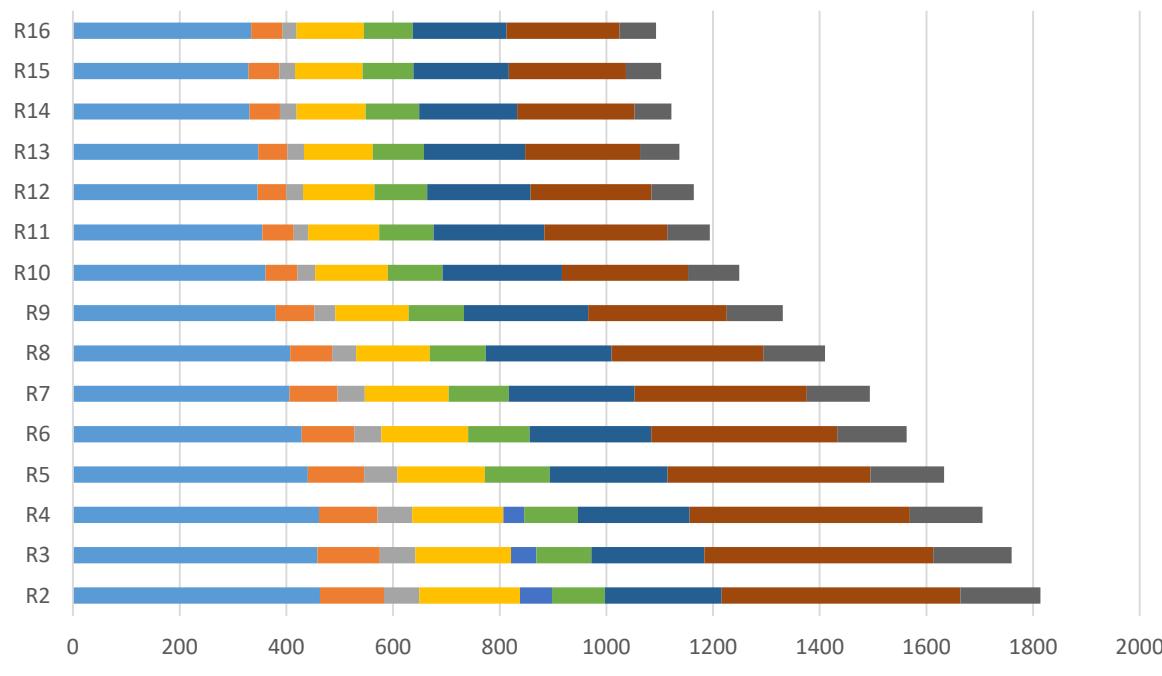
※R2年度には3,000人を超えていた児童数が、R6年度には2,600人台となり、5年の間に409人の減、13.5%の減となった。

※更にR12年度には2,000人を割って1,900人台となり、R16年度の推計では、R2年度と比較すると1,188人の減・39.3%減となる1,835人になると推計。  
(R6年度との比較では、779人の減・29.8%の減)

## 2. 本市の「人口推計」と「児童数の推計」

### ●旧水海道地区

	実 績					推 計										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
水海道小	463	458	461	440	429	406	407	380	361	355	346	347	331	329	334	
大生小	120	117	110	106	98	90	79	73	60	59	54	55	57	58	58	
五箇小	66	67	65	62	51	51	45	39	33	27	31	31	31	29	27	
三妻小	189	179	171	164	163	157	138	137	136	133	134	129	130	127	126	
大花羽小	60	48	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
菅原小	99	103	101	122	115	113	105	104	103	102	99	96	100	95	92	
豊岡小	219	212	209	221	228	236	236	233	224	208	194	190	184	179	176	
絹西小	448	429	413	380	349	323	284	260	236	230	227	215	220	220	212	
菅生小	150	147	136	138	130	118	116	105	96	80	79	74	69	66	68	
小学校計	1814	1760	1705	1633	1563	1494	1410	1331	1249	1194	1164	1137	1122	1103	1093	



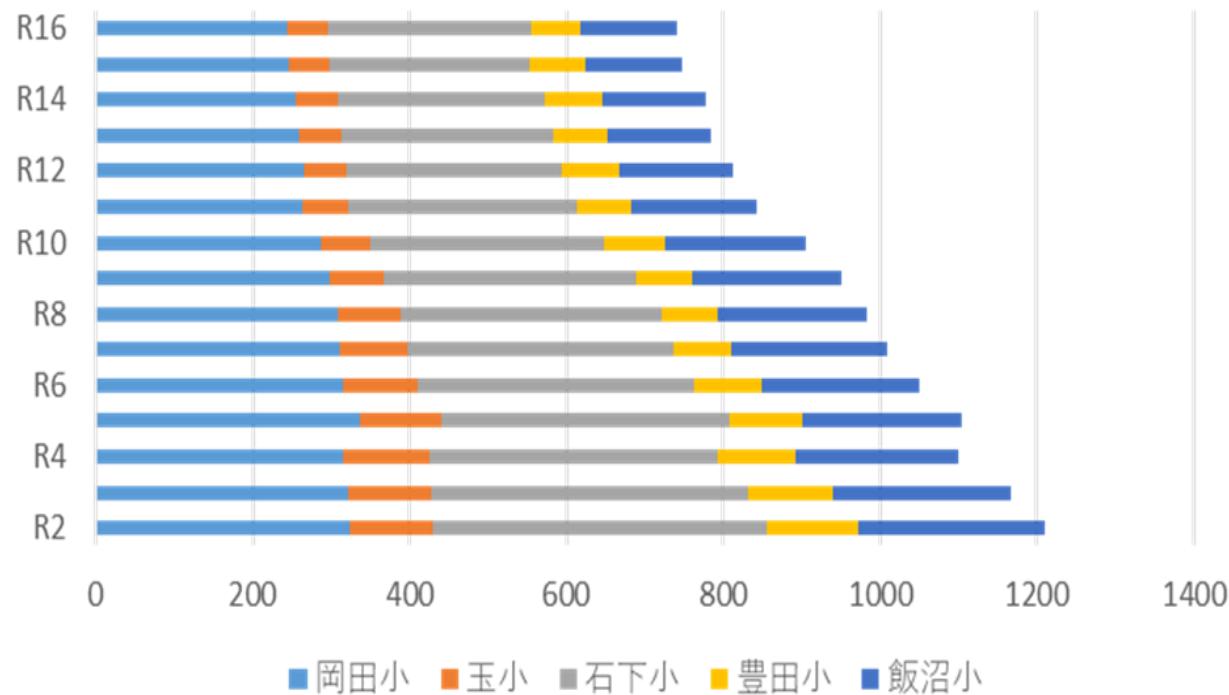
※五箇小の児童数が、R2年度から60人台となっており、R9年度には30人台、R15年度・16年度には20人台まで減少する見込み。

※大生小でも、R6年度には2桁台の児童数となっており、R11年度からは50人台を維持する見込み。

## 2. 本市の「人口推計」と「児童数の推計」

### ●旧石下地区

	実 績					推 計										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
岡田小	325	321	315	338	315	312	310	299	288	264	265	259	254	246	244	
玉小	104	107	111	103	96	86	78	68	61	58	55	54	54	53	51	
石下小	427	404	368	367	352	339	334	322	300	292	274	270	265	255	260	
豊田小	116	108	98	94	87	74	70	72	76	68	73	70	72	71	64	
飯沼小	237	227	207	201	201	199	191	190	181	160	146	131	132	123	123	
小学校計	1209	1167	1099	1103	1051	1010	983	951	906	842	813	784	777	748	742	



※玉小については、R6年度に2桁台に減少している。

※豊田小については、R4年度において既に2桁台となっていた。

※R7年度以降の推計では、玉小ではR6年度と比較すると、10年後となるR16年度には45人の減となる51人まで減少し、豊田小では、23人減となる64人まで減少する見込み。

### 3. 学校の適正な規模

#### 【3-1. 法令等による適正規模】

##### ＜学校教育法 施行規則 第41条＞

小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実情その他により特別の事情があるときは、この限りではない。

##### ＜学級数による学校規模の分類：小学校＞

学校規模	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
学級数	1～5	6～11	12～18	19～30	31以上

※「公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引き」から引用

##### ＜現行の学校規模の標準(12～18学級)を下回る場合の市町村における対応の大まかな目安＞

1～5学級：複式学級が存在する規模
学校統合等により、適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。
6学級：クラス替えができない規模
複式学級が発生する可能性あるため、学校統合等により、適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。
7～8学級：全学年ではクラス替えができない規模
学校統合の適否を含め、今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。
9～11学級：半分以上の学年でクラス替えができる規模
児童数予測等を加味して、今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。

※「公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引き」から引用

##### ＜茨城県の指針＞

○小学校では、クラス替えが可能である各学年2学級以上となる12学級以上が望ましい。

##### ＜常総市＞

○既設の学校の歴史的、地理的、文化的経緯も十分に考慮し、単に機械的に行うことなく、教育的観点、地域性などに配慮しながら進めていく。

「小学校は、クラス替えが可能な各学年2学級以上となる12学級以上が望ましい。」

※「常総市立小中学校適正配置実施計画」から引用。

## 4. 本市の「学級数の推計」

### 【4-1. 公立小学校の学級編成基準】

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						
令和6年度						
令和7年度						

#### ●学級編制の標準の引き下げ等について（令和3年度施行）

令和3年3月31日付「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律等の施行について（通知）」が公布。

- ・旧制度では1年生のみが上限35人、2年生以降は40人を標準としていた。



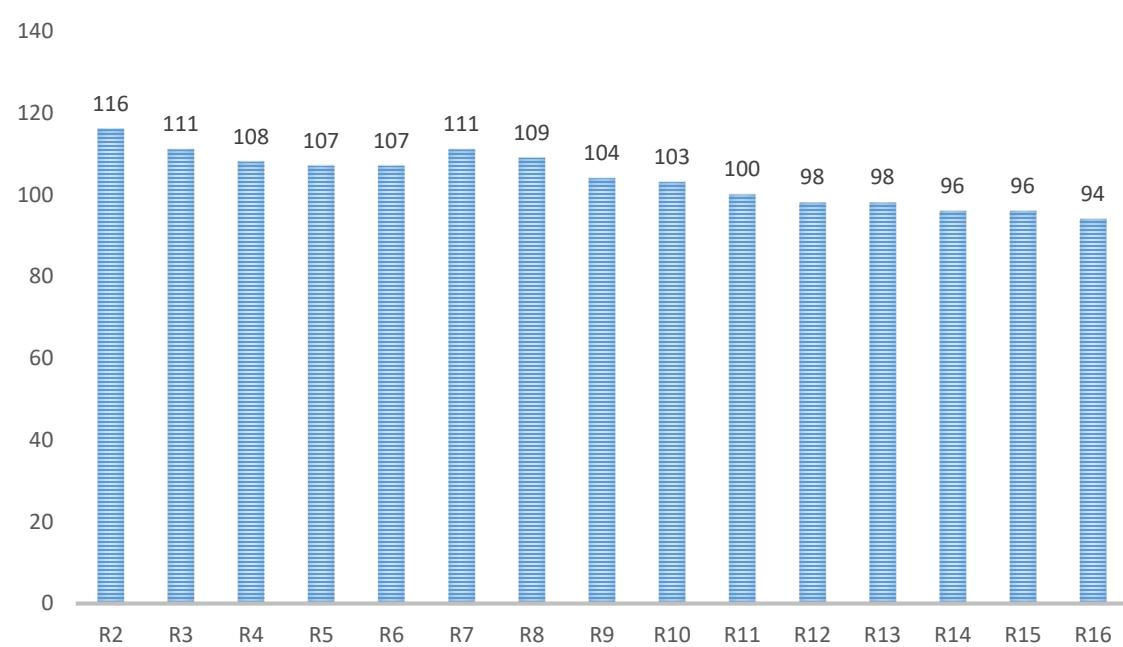
- ・令和3年度から5年かけて、2年生以上の学年を40人から35人に引き下げる。
- ・令和7年度までに、公立小学校ではすべての学年で定員が35人になる。
- ・令和7年度以降：36人以上 → 全学年で2学級以上となる

## 4. 本市の「学級数の推計」

### 【4-2. 学級数の推移と将来推計】

#### ●市内小学校 全校

	実績					推計										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
水海道小	14	13	13	13	13	14	14	13	13	13	13	13	12	12	12	
大生小	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	5	6	5	5	
五箇小	6	6	5	5	5	5	5	4	4	3	4	4	4	4	4	
三妻小	6	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
大花羽小	5	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
菅原小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
豊岡小	7	7	7	8	9	11	11	10	9	8	7	7	6	6	6	
絹西小	14	12	13	13	13	12	11	10	10	10	10	10	10	10	9	
菅生小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
岡田小	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
玉小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	
石下小	14	13	12	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
豊田小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
飯沼小	8	8	7	6	6	8	8	8	8	7	6	6	6	6	6	
小学校計	116	111	108	107	107	111	109	105	103	101	98	99	97	97	95	



※R2年度には市内小学校 全14校で116学級であったが、R5年度には大花羽小が菅原小と統合し全13校で107学級となった。

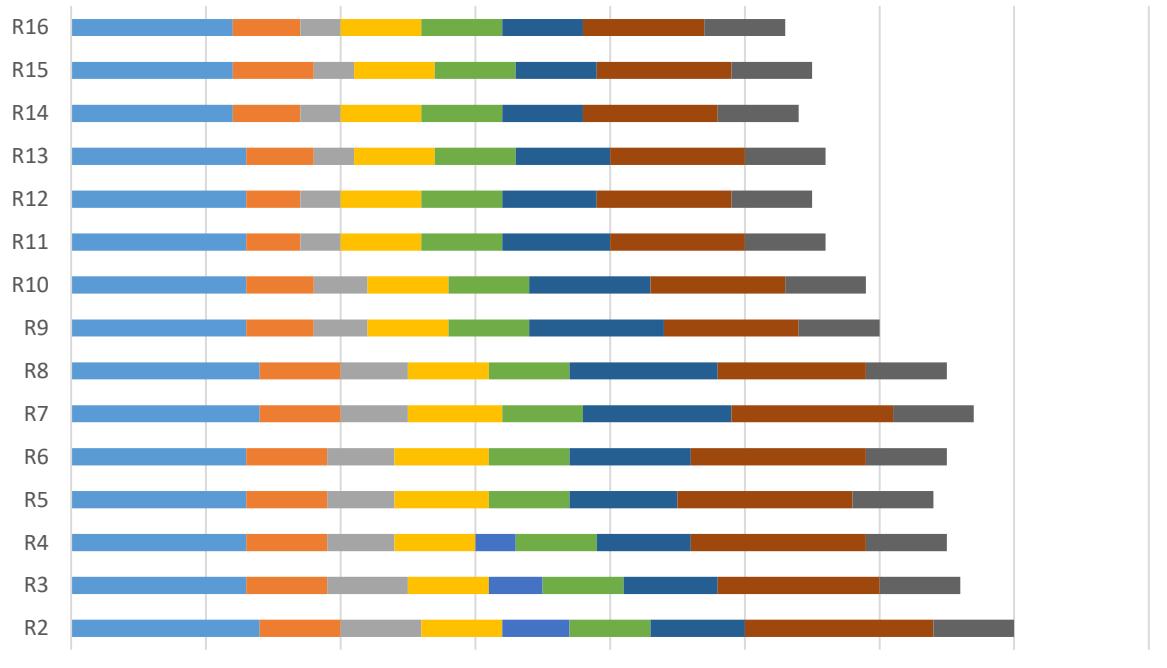
※R7年度以降の推計では緩やかに減少し、R12年度には2桁台となり、R16年度には市内小学校全体で95学級となる見込み。

※R6年度と比較すると、R16年度までに12学級減少する見込み。

## 4. 本市の「学級数の推計」

### ●旧水海道地区

	実 績					推 計										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
水海道小	14	13	13	13	13	14	14	13	13	13	13	13	12	12	12	
大生小	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	5	5	6	5	
五箇小	6	6	5	5	5	5	5	5	4	4	3	4	4	4	4	
三妻小	6	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
大花羽小	5	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
菅原小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
豊岡小	7	7	7	8	9	11	11	10	9	8	7	7	6	6	6	
絹西小	14	12	13	13	13	12	11	10	10	10	10	10	10	10	9	
菅生小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
小学校計	70	66	65	64	65	67	65	61	59	57	55	57	55	56	54	

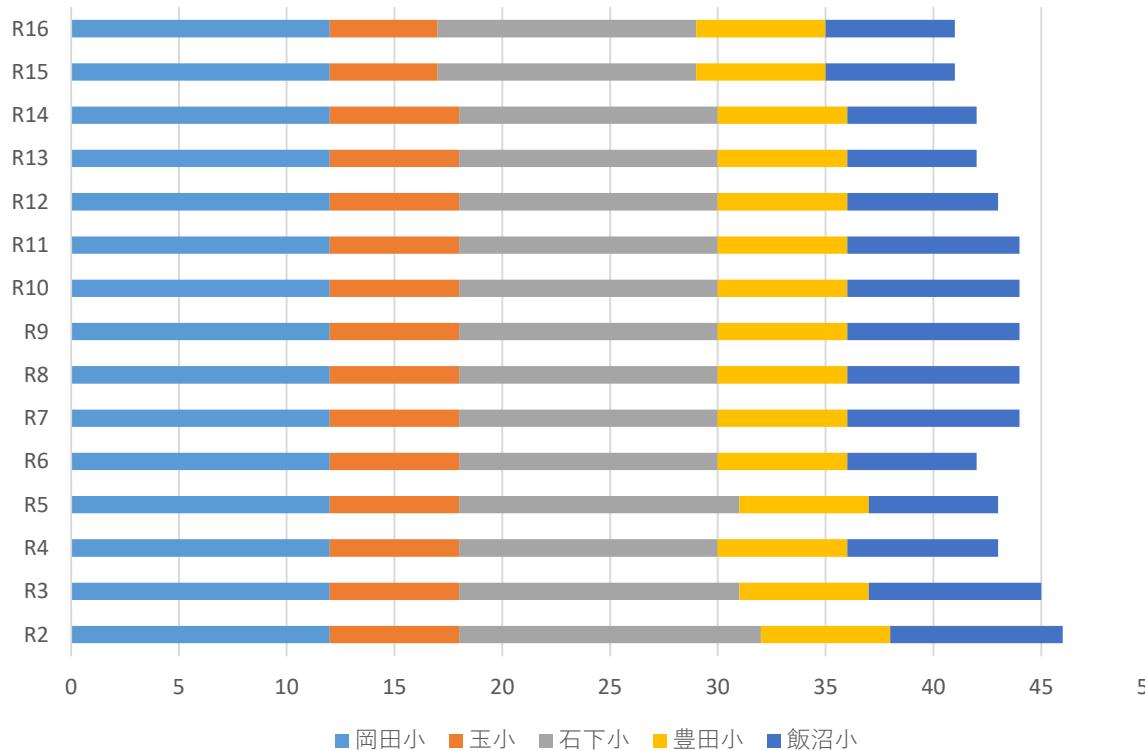


- ※大生小は、R9年度から「学校規模の目安」としては、「過小規模校」となる5学級となることで複式学級が発生する見込みであり、その後、R16年度まで、ほぼ複式学級が継続される見込み。
- ※五箇小については、R4年度から複式学級が発生し、今年度は5・6年生で複式学級となっている。
- ※R7年度以降の推計においてもその傾向は続く見込みであり、R10年度以降はR12年度（3学級）を除き、6学年で4学級となる状況が継続される見込み。

## 4. 本市の「学級数の推計」

### ●旧石下地区

	実 績					推 計										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
岡田小	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
玉小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5
石下小	14	13	12	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
豊田小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
飯沼小	8	8	7	6	6	8	8	8	8	8	7	6	6	6	6	6
小学校計	46	45	43	43	42	44	44	44	44	44	43	42	42	41	41	41



※石下小はR2年度が14学級で、R16年度の推計と比べても2学級しか減少せず安定しており「適正規模校」となる学級数を確保する見込み。

※玉小は、R7年度以降の推計において、R14年度までは「小規模校」となる6学級を確保する見込みであるが、R15年度からは「学校規模の目安」としては「過小規模校」となる5学級となる見込み。

※豊田小については、R7年度以降の推計においても「小規模校」となる6学級を確保する見込みである。

## 4. 本市の「学級数の推計」

### 【4-3. 本市の学校規模の現状と見込み】

<令和6年5月1日現在>

学校規模	小学校名	学校数
過小規模校（1～5学級）	五箇小学校（5）	1校
小規模校（6～11学級）	大生小学校（6），三妻小学校（7），菅原小学校（6），豊岡小学校（9） 菅生小学校（6），玉小学校（6），豊田小学校（6），飯沼小学校（6）	8校
適正規模校（12～18学級）	水海道小学校（13），絹西小学校（13），岡田小学校（12） 石下小学校（12）	4校

※（）内の数字は学級数。



<令和16年度の推計>

学校規模	小学校名	学校数
過小規模校（1～5学級）	五箇小学校（4），大生小学校（5），玉小学校（5），	3校
小規模校（6～11学級）	三妻小学校（6），菅原小学校（6），豊岡小学校（6），絹西小学校（9） 菅生小学校（6），豊田小学校（6），飯沼小学校（6）	7校
適正規模校（12～18学級）	水海道小学校（12），岡田小学校（12），石下小学校（12）	3校

※（）内の数字は学級数。

# 5. 小学校の第2段階における統合計画について

## 【5-1. 「五箇小学校と大生小学校」による統合計画】

### ●五箇小学校におけるアンケート調査結果の一部 (R5.7月現在)

#### 【2校の統合案について】

賛成	どちらかと言えば賛成	どちらとも言えない	どちらかと言えば反対	反対
15.1%	24.2%	36.4%	18.2%	6.1%

#### 【統合の時期について】

できるだけ早く	3~4年程度先	5~6年程度先	7年以上先	統合の必要なし	わからない
24.2%	27.2%	21.2%	6.1%	6.1%	15.2%

#### <ご意見>

- 通学方法への不安・スクールバスの運行を要望する意見が多い。
- 出来るだけ早い統合を強く希望する意見や、在校生が五箇小で卒業できるように配慮してほしい旨の意見あり。

### ●大生小学校におけるアンケート調査結果の一部 (R5.7月現在)

#### 【2校の統合案について】

賛成	どちらかと言えば賛成	どちらとも言えない	どちらかと言えば反対	反対
29.8%	31.6%	33.3%	3.5%	1.8%

#### <ご意見>

- スクールバスの運行の他、学童設置の要望あり。
- 2校を合わせると、ちょうどいい人数になるのではないか。
- 小規模の良さもあるが、統合した場合は児童数の他、先生の数が増えるという利点もある。

#### 【統合の時期について】

できるだけ早く	3~4年程度先	5~6年程度先	7年以上先	統合の必要なし	わからない
26.3%	21.1%	12.3%	8.8%	3.5%	28.1%

## ● 2校による統合計画

### <施設の比較>

	施設	建築年(築年数)	構造	延床面積	階数	教室数		敷地面積	備考
						普通教室	特別教室		
五箇小	校舎	S53（46年）	RC造	1,982m <sup>2</sup>	3階建	8	6	14,378m <sup>2</sup>	耐震基準適合
	屋内運動場	S55（44年）	S造	791m <sup>2</sup>	—	—	—		耐震補強工事 2010年度実施
大生小	校舎	S56（43年）	RC造	2,949m <sup>2</sup>	3階建	8	8	16,339m <sup>2</sup>	耐震補強工事 2015年度実施
	屋内運動場	S57（42年）	S造	775m <sup>2</sup>	—	—	—		耐震基準適合

- ・築年数：校舎及び屋内運動場において40年以上を経過。
- ・教室数：特別教室数に多少の差はあるが、普通教室数は同数。
- ・敷地面積：大生小学校において、1,900m<sup>2</sup>以上広い敷地面積を保有。
- ・校舎の延床面積：大生小学校において、900m<sup>2</sup>以上広い面積を保有。
- ・両校において、校舎並びに屋内運動場ともに「耐震基準に適合」あるいは「耐震補強工事実施済み」の施設となる。
- ・大生小学校では、H27年の水害後において校舎の1階部分（普通教室、特別教室、職員室、保健室、放送室、トイレ、廊下）及び屋内運動場などの大規模改修が実施されている。

# 5. 小学校の第2段階における統合計画について

## ＜学級数の推移と将来推計＞

(学級数)	実績					推計									
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
大生小	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	5	5	6	5
五箇小	6	6	5	5	5	5	5	5	4	4	3	4	4	4	4

## ＜統合シミュレーション＞

年度	R6				R7				R8				R9				R10				
学校名	五箇小	大生小	新校																		
学年	児童数	児童数	児童数	学級数																	
1	1	14	15	1	5	8	13	1	5	6	11	1	7	7	14	1	6	8	14	1	
2	9	17	26	1	1	14	15	1	5	8	13	1	5	6	11	1	7	7	14	1	
3	12	21	33	1	9	17	26	1	1	1	14	15	1	5	8	13	1	5	6	11	1
4	13	13	26	1	12	21	33	1	9	17	26	1	1	14	15	1	5	8	13	1	
5	11	17	28	1	13	13	26	1	12	21	33	1	9	17	26	1	1	14	15	1	
6	5	16	21	1	11	17	28	1	13	13	26	1	12	21	33	1	9	17	26	1	
計	51	98	149	6	51	90	141	6	45	79	124	6	39	73	112	6	33	60	93	6	

年度	R11				R12				R13				R14				R15			
学校名	五箇小	大生小	新校																	
学年	児童数	児童数	児童数	学級数																
1	3	16	19	1	5	9	14	1	5	9	14	1	5	8	13	1	5	8	13	1
2	6	8	14	1	3	16	19	1	5	9	14	1	5	9	14	1	5	8	13	1
3	7	7	14	1	6	8	14	1	3	16	19	1	5	9	14	1	5	9	14	1
4	5	6	11	1	7	7	14	1	6	8	14	1	3	16	19	1	5	9	14	1
5	5	8	13	1	5	6	11	1	7	7	14	1	6	8	14	1	3	16	19	1
6	1	14	15	1	5	8	13	1	5	6	11	1	7	7	14	1	6	8	14	1
計	27	59	86	6	31	54	85	6	31	55	86	6	31	57	88	6	29	58	86	6

※学区外から通学する児童も想定されるため、実際の数とは異なります。

## 《五箇小学校と大生小学校による統合の方針》

- 児童の教育環境や学習環境、人間関係の構築などを考慮。
- 良好な教育環境を将来にわたって継続的に確保するための取り組み。

### (児童数)

- ・五箇小：51人（R6年度）→27人（R16年度）
- ・大生小：98人（R6年度）→58人（R16年度）

### (学級数)

- ・五箇小：5学級（R4年度）→4学級（R10年度以降、6学年で4学級となる見込み）
- ・大生小：6学級（R4年度）→5学級（R9年度以降、複式学級の状況が継続される見込み）  
→ R9年度から両校において複式学級が発生し「過小規模校」となる見込み。

### (施設)

- ・第3段階において、水海道小学校及び三妻小学校との統合計画があるため、第2段階においてはどちらか一方の学校施設に集約。
- 大規模改修の実施により施設における環境面が向上したことの他、鬼怒中学校閉校後の地域性を考慮し（令和7年4月以降、鬼怒中学校の閉校に伴い、水海道東部地区に立地する小学校4校は全て水海道中学校区となる）**「大生小学校」に統合する。**



**統合目標時期：令和9年4月1日**

- 児童の学習環境の確保という視点から、保護者の方のご意向を伺っていく。
- スクールバスの運行検討を含め協議を進める。

## 5. 小学校の第2段階における統合計画について

### 【5-2. 「玉小学校・石下小学校・豊田小学校」による統合計画】

#### ●玉小学校におけるアンケート調査結果の一部 (R5. 7月現在)

##### 【3校の統合案について】

賛成	どちらかと言えば賛成	どちらとも言えない	どちらかと言えば反対	反対
25.0%	21.8%	34.4%	9.4%	9.4%

##### 【統合の時期について】

できるだけ早く	3~4年程度先	5~6年程度先	7年以上先	統合の必要なし	わからない
23.4%	14.1%	14.1%	10.9%	10.9%	26.6%

##### <ご意見>

- “小規模”故の良さがある。今が丁度いい。
- スクールバスを運行してほしい。
- 統合するなら学校の位置・通学バス・体操着など早く決めてほしい。
- 統合することで学校が活気づくのであれば賛成。
- 統合することを理解した上で入学した訳ではないので、統合する場合は在校生卒業後にしてほしい。
- タイミングが大事。

#### ●石下小学校におけるアンケート調査結果の一部 (R5. 7月現在)

##### 【3校の統合案について】

賛成	どちらかと言えば賛成	どちらとも言えない	どちらかと言えば反対	反対
20.8%	37.1%	31.7%	5.0%	5.4%

##### 【統合の時期について】

できるだけ早く	3~4年程度先	5~6年程度先	7年以上先	統合の必要なし	わからない
19.8%	22.8%	9.9%	3.5%	8.4%	35.6%

##### <ご意見>

- 新校舎の位置により通学方法を検討しなければならない。スクールバスを運行してほしい。
- あまり増えるよりも今のままがいい。
- 地域と共生する学校づくりを望む。

## 5. 小学校の第2段階における統合計画について

### ●豊田小学校におけるアンケート調査結果の一部 (R5.7月現在)

#### 【3校の統合案について】

賛成	どちらかと言えば賛成	どちらとも言えない	どちらかと言えば反対	反対
20.7%	25.9%	39.7%	12.1%	1.6%

#### 【統合の時期について】

できるだけ早く	3~4年程度先	5~6年程度先	7年以上先	統合の必要なし	わからない
17.2%	13.8%	17.2%	15.5%	1.7%	34.6%

#### <ご意見>

- 一クラスの人数が少ないとデメリットばかりではない。現段階で統合する必要はない。
- 統合すると新たな購入物が増える。(負担増)
- 3校とも校舎が古いため、統合の際は新校舎を望む。
- スクールバスの導入が必須。

## ● 3校による統合計画

### <施設の比較>

	施設	建築年(築年数)	構造	延床面積	階数	教室数		敷地面積	備考
						普通教室	特別教室		
玉小	校舎	S48 (51年)	RC造	1,887m <sup>2</sup>	2階建	7	6	14,297m <sup>2</sup>	耐震基準適合
	屋内運動場	S53 (46年)	S造	580m <sup>2</sup>	—	—	—		耐震基準適合
石下小	校舎	S53 (46年)	RC造	4,491m <sup>2</sup>	3階建	19	9	24,574m <sup>2</sup>	耐震補強工事 2012年度実施
	屋内運動場	S55 (44年)	S造	993m <sup>2</sup>	—	—	—		耐震補強工事 2010年度実施
豊田小	校舎	S57 (42年)	RC造	1,932m <sup>2</sup>	3階建	7	6	12,948m <sup>2</sup>	耐震基準適合
	屋内運動場	S52 (47年)	S造	580m <sup>2</sup>	—	—	—		耐震補強工事 2010年度実施

- ・3校ともに、校舎並びに屋内運動場は「耐震基準に適合」あるいは「耐震補強工事実施済み」の施設となる。
- ・校舎の延床面積、教室数及び敷地面積を比較すると、石下小学校は児童の収容力が高く、3校の中では拠点校として有力な候補地。
- ・ただし、校舎の築年数は3校とも40年以上を経過しており、玉小学校の校舎は50年以上経過するなど、老朽化が進んでいる。

## 5. 小学校の第2段階における統合計画について

### ＜学級数の推移と将来推計＞

(学級数)	実績					推計									
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
玉小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5
石下小	14	13	12	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
豊田小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

### ＜統合シミュレーション＞

年度	R6				R7				R8				R9				R10			
	学校名	玉小	石下小	豊田小	新校	玉小	石下小	豊田小												
学年	児童数	児童数	児童数	学級数																
1	12	63	7	82	3	9	47	15	71	3	8	47	9	64	2	9	51	12	72	3
2	14	56	16	86	3	12	63	7	82	3	9	47	15	71	3	8	47	9	64	2
3	16	58	13	87	3	14	56	16	86	3	12	63	7	82	3	9	47	15	71	3
4	19	63	10	92	3	16	58	13	87	3	14	56	16	86	3	12	63	7	82	3
5	16	52	13	81	3	19	63	10	92	3	16	58	13	87	3	14	56	16	86	3
6	19	60	28	107	3	16	52	13	81	3	19	63	10	92	3	16	58	13	87	3
計	96	352	87	535	18	86	339	74	499	18	78	334	70	482	17	68	322	72	462	17

年度	R11				R12				R13				R14				R15			
	学校名	玉小	石下小	豊田小	新校	玉小	石下小	豊田小												
学年	児童数	児童数	児童数	学級数																
1	11	48	8	67	2	9	45	12	66	2	8	43	12	63	2	8	42	11	61	2
2	9	36	17	62	2	11	48	8	67	2	9	45	12	66	2	8	43	12	63	2
3	9	51	12	72	3	9	36	17	62	2	11	48	8	67	2	9	45	12	63	2
4	8	47	9	64	2	9	51	12	72	3	9	36	17	62	2	11	48	8	67	2
5	9	47	15	71	3	8	47	9	64	2	9	51	12	72	3	9	36	17	62	2
6	12	63	7	82	3	9	47	15	71	3	8	47	9	64	2	9	51	12	72	3
計	58	292	68	418	15	55	274	73	402	14	54	270	70	394	13	54	265	72	391	13

### 《玉小学校・石下小学校・豊田小学校による統合の方針》

- 児童の教育環境や学習環境、人間関係の構築などを考慮。
- 良好な教育環境を将来にわたって継続的に確保するための取り組み。

#### (児童数)

- ・玉小：96人（R6年度）→ 51人（R16年度）
- ・石下小：352人（R6年度）→ 260人（R16年度）
- ・豊田小：87人（R6年度）→ 64人（R16年度）

#### (学級数)

- ・玉小：6学級（R6年度）→ 5学級（R15年度以降、複式学級となる見込み）
- ・石下小：12学級（R6年度）→ 12学級（R16年度）
- ・豊田小：6学級（R6年度）→ 6学級（R16年度）

→五箇小学校のように、現時点で複式学級は発生しておらず、大生小学校のように今後数年以内に複式学級が発生するというような状況ではないが、第2段階での統合計画が最終的な統合形態となるため、3校における「拠点校の位置」を検討する。

#### (施設)

- ・3校ともに校舎の築年数は40年から50年を経過するなど、学校施設の老朽化が進んでいる。
  - ・令和4年の答申の際、「学校施設については、可能な限り新しい教育スタイルに合致する施設整備を検討すること」（付帯意見）
- 石下小学校は児童の収容力は高いが、既存施設の改修（延命）ではなく「**新校舎の建設**」が望ましいと考える。

### 《玉小学校・石下小学校・豊田小学校による統合の方針》

#### 「新校舎の建設」を含めた拠点校の位置を検討

- 学校施設は子どもたちの学習・生活の場  
→ ゆとりある教室空間の創造・生活環境の確保。
- 多様化する教育内容への対応  
→ GIGAスクール構想等を踏まえ、従来よりも広い普通教室面積を確保。
- 地域における新たな拠点  
→ 災害に強く、避難施設機能が充実した施設。



#### 「既存学校敷地以外での新校舎建設」について協議

- 用地の選定・取得、都市計画法・農林協議・補助制度活用の手続き、基本構想から基本設計、実施設計、土地の造成期間、工事期間等を含めると、「新校の開校」までに一定の長期期間を要する。
  - 財政部局との連携・調整が必須。
  - 児童の学習環境の確保という視点から、保護者の方のご意向を伺っていく。
  - スクールバスの運行検討を含め協議を進める。
- 本統合計画は、令和9年度までの計画実施を目安としているが、新校舎建設に関する所要期間等を考慮し、改めて「統合目標時期」を協議する。

## 5. 小学校の第2段階における統合計画について

### 五箇小学校と大生小学校による統合方針

- 五箇小：令和4年度から現在まで唯一、複式学級が発生している小学校であり、令和10年度からは6学年で4学級となる傾向が継続される見通し。
- 大生小：今後3年以内に複式学級が発生する見通しで、その傾向は継続される見込み。
- 第3段階において、水海道小学校及び三妻小学校との統合計画があるため、第2段階においてはどちらか一方の学校施設に集約。



**統合校：大規模改修の実施により施設における環境面が向上したことの他、  
地域性を考慮し「大生小学校」に統合**

**統合目標時期：令和9年4月1日（本市「適正配置実施計画」のとおり）**

### 玉小学校・石下小学校・豊田小学校による統合方針

- 第2段階での統合計画が最終的な統合形態となるため、3校における『拠点校の位置』を検討。
- 3校ともに学校施設の老朽化が進んでおり、更に、令和4年の答申の際「新しい教育スタイル」を求める付帯意見も出されていることなどから、既存施設の改修（延命）ではなく『新校舎の建設を含めた拠点校の位置』を検討。



**「既存学校敷地以外での新校舎建設」について協議を進める**